

未来志創

よし！廣晴ろう！

昨日の朝は白熱した大じゃんけん大会が繰り広げられましたね。結果は…私の力不足により、負けてしまいました。まだまだ修行不足を実感しましたが、今回使わずに貯めた運を合唱コンクール本番までとっておきたいと思うことにします。気が早いですが、素晴らしい合唱にしましょう！！

さて、昨日から保護者懇談会が始まりました。皆さんの中には、学校生活での姿と家で過ごす姿が全く異なる人もいますね。いろいろなことを知れて嬉しいです。しっかりと自分を振り返り、向き合う時間にしたいですが、同時に、皆さんが日々頑張る姿の一つでも多く伝えるのが私の目標です。一人一人はわずかな時間ですが、充実した時間にしましょう。

今日一日だけ、そっち側の人間になると決めろ！

この通心でも何度も登場している喜多川泰さんの著書から、印象に残った部分を紹介します。勉強も部活も恋も、何もかも中途半端な18歳の少年が、鳥肌が立つくらい本気になって“今”を生活している大人たちとの出会いによって、成長していくストーリーです。

「お前、高校卒業後の進路は決めているのか？」

「はい、大学に行きたいと…」

「じゃあ、行きたい大学は決まっているのか？」

「はい…一応」

「どこだ？」

「ええと、K大学です」

「よし、じゃあそのK大学に、合格する人間としてふさわしい人間をイメージしてみろ。

できる限り具体的にだ」

謙治は颯汰の様子を観察しながら話を進めた。

「そしたら、考えろ。今の自分はそっち側の人間か？」

颯汰は首を振った。

「そうだな。つまり自分でも分かっている。今の自分はK大学に合格するにふさわしい人ではないって。そこで、今日一日だけ、そっち側の人間になると決めろ」

「今日一日だけ…ですか？」

「そうだ。今日一日だけでいい。こんな過ごし方をしている奴がK大学の合格を手にするにふさわしいだろうと自分でも納得できるような過ごし方を、一日だけでいいからしてみると決意しろ。どうだ、難しそうか？」

「いいえ、今日一日でいいんなら、いけそうです」

「一日でいい。その代わり、今日だけは負けるな。いつもは逃げていたかもしれないけれど、今日だけは逃げないって決めろ」

颯汰は力強くうなずいた。

～中略～

「一日できる奴は、一生できる。実際に、長い間ひとつのことに集中して、何かを成し遂げている人は、すべての『今日』について、そう考えて生きているに過ぎない」

「すべての今日…」

「朝起きるだろ。そうしたらまず心に決めるんだ。今日だけは、今日一日だけは、負けないし逃げない。今日だけは、自分が手に入れたいものにふさわしいと自分で納得ができる生き方をする。一日が終わるときに、今日みたいな過ごし方をしている奴は、嫌でも自分の欲しい合格が手に入るんだらうなあと、自分でも納得できる一日にする。そう心に決めるんだ。そして、そんな一日が送れたら、合格への道は半分来たも同じだ。一日できる奴には、ずっと続ける力が必ずある。今日一日すらできない奴には、一生チャンスはない」

「たった一日で…？それから続けられるようになるんですか？」

颯汰は半信半疑で聞いた。

「ああ、考えてみる。そんな一日を自分が送れたとしたら一日の終わりにどう思う？もう二度とこんな一日はごめんだって思うと思うか？真逆さ、こんなに気分のいい一日はないって思うだろ？自分にもできたって喜びに溢れてな。だから、次の日もそんな一日にしたいって。心から思えるようになるのさ。そうやって『今日だけは』っていうのをすべての朝に決心する」

『秘密結社 Ladybird と僕の6日間』(喜多川泰)

1学期を振り返ってみると、学習、部活動、生活等さまざまな面で「もっとこうしたい」といった目標をもつようになりますね。ただ、それを実現するのはなかなか難しいです。だからこそ、「今日だけは」という強い気持ちをもってチャレンジしてみるのはいかがでしょう。実践あるのみ。

